へ13
3746
10

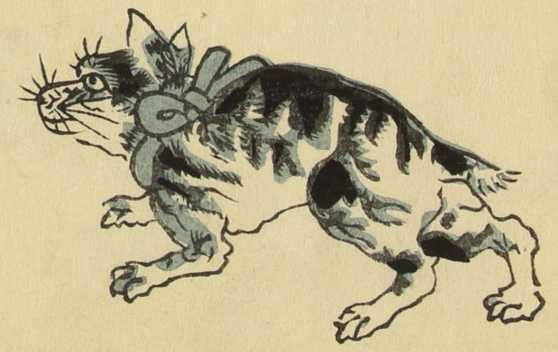
門へ13
3746

美武良前

十編上

仙果作

國貞画



佐野屋壽梓

猫ハ名るに虎とのそし風とのそし偉子とのそし鼠とのそし終ハ本の猫ハ帰を絡の袴丹後平の外套流行ハ欲しきやうなれども忽廃てハ朝市ゆも見ぎさんあれど草造紙の豪次無ハ好男子の義なるめハ定りて美人も能製ゆる大力るうねハ再ハ先見立のみきめるれど女清丞とう女自来也とう男を女ハ轉て用ハ奇けれど理ハ背けば必困ることあり日待の晩の苗字飯さえ毎日にるてハ狂尋常の糒糅飯の白きハ如き姫れ前ハらつもく温柔ものをあるをけれ女四天王の荒事ハ傾城水滸の仮異話のふ古流去と問屋の意見ハ言ハ即れ見物のきさうるうと低頭平身非矣非矣と陪罪稲荷さる九尾きぐこの渡婦ハ新刻書房にあづけおき當店ハ彼の雑猫のやうに戯而女でも猛に来のあハ和と先試ハ此十編平穏れば又一際前くまりも血ハけとど女で作てもあくるき女論語女孝経を讀よる气悟も出までくや

安政四年己 太簇吉祥日

笠亭仙果

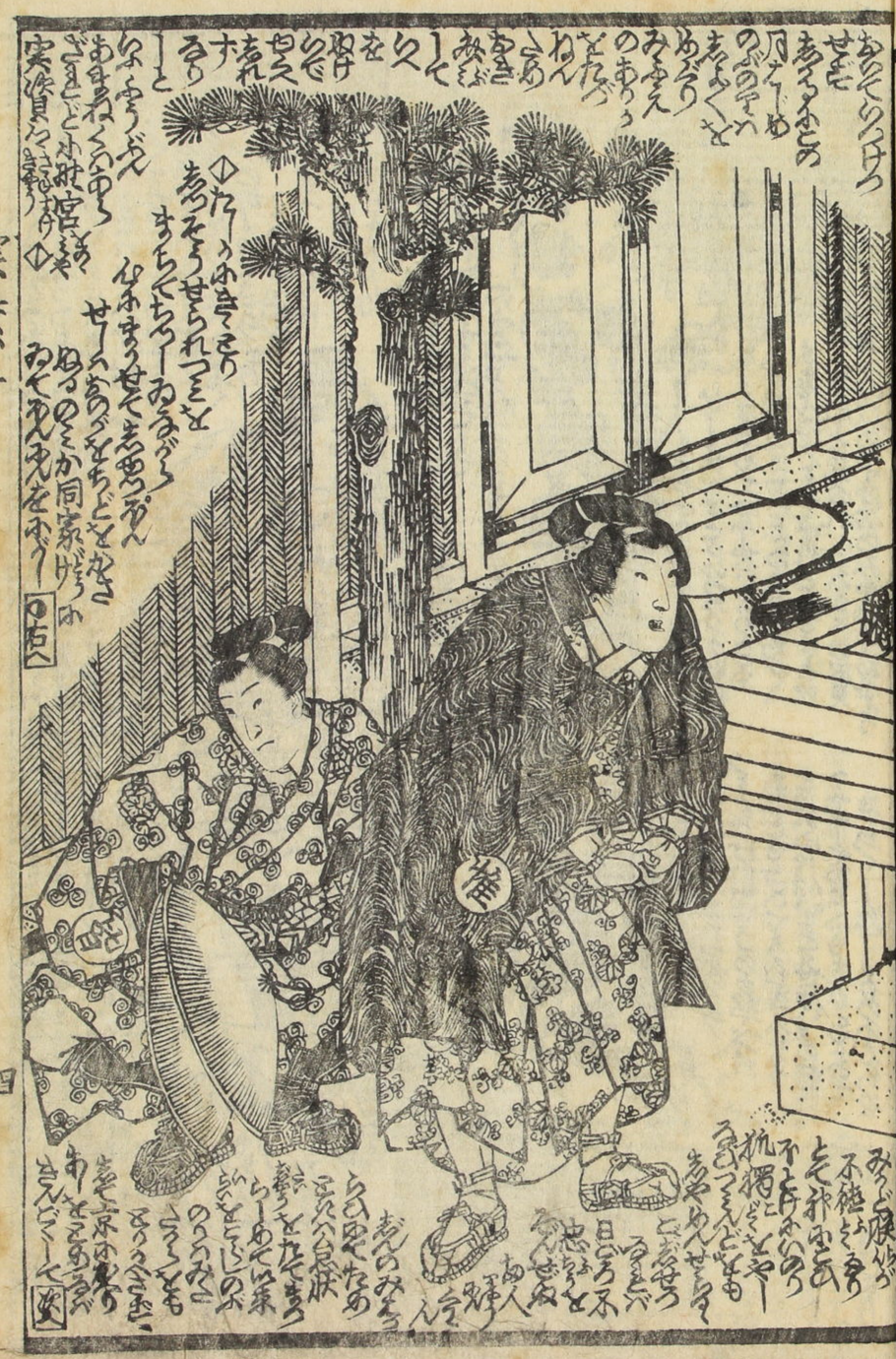
松崎
右衛門佐藤原宣孝
顕文紗の
地文
新み注文
する所
四年ばかり以往
あつらへ多
本文ふり

處女
挑手子

機織女
倭文の
文姫

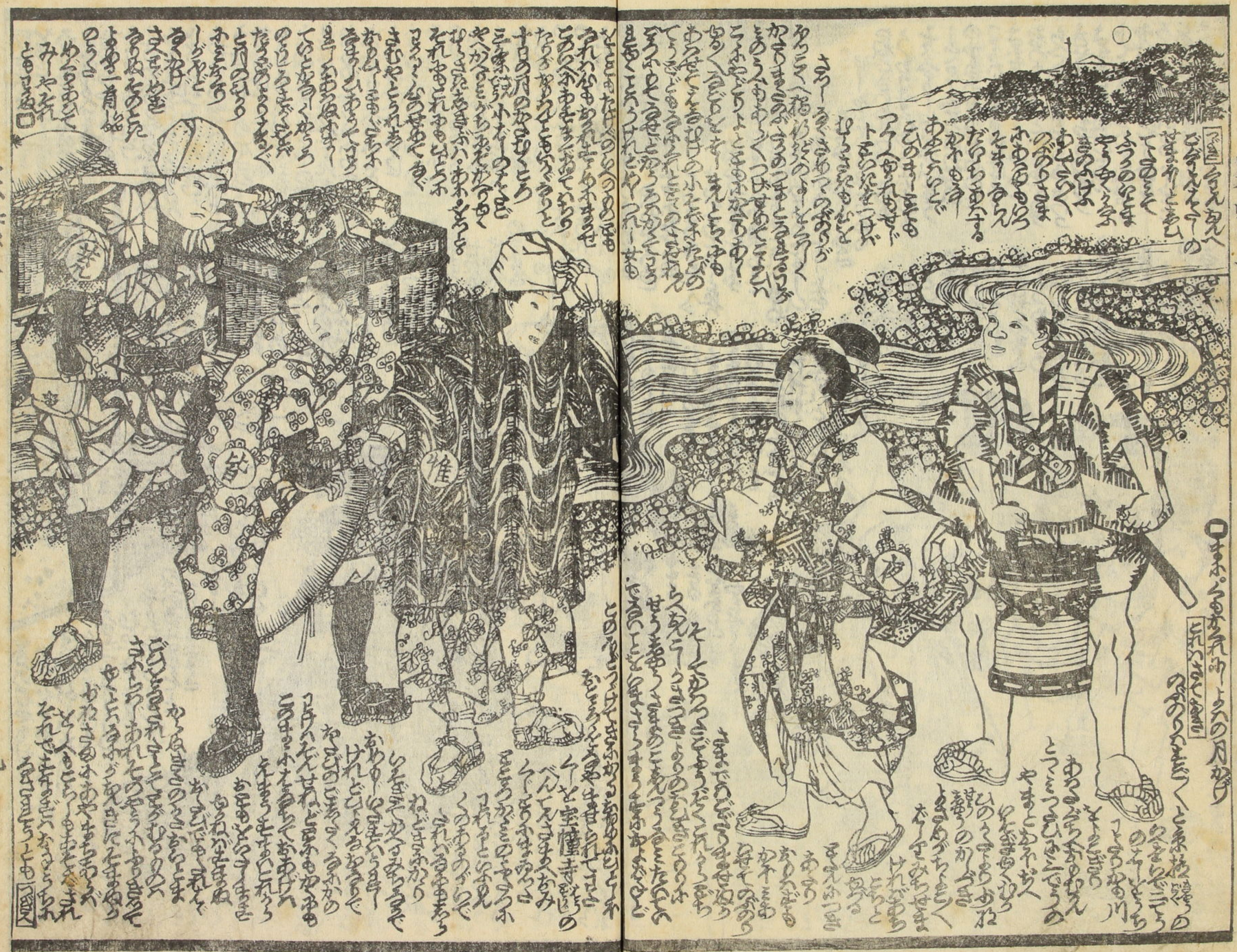
淡海刺史顕獻
季女 鳴児

花園邑秋錦院
住僧 壽祖
賢婦
紅藍
吏部



香

二
塵



安政四年丁巳孟春新刊目録

松源實記

自九編至十四編　笠亭仙果作
當辰正月發兒　歌川國貞画

九編　惟規少將再度中將の新計を聞て其寛を救ふの齋院御使の行啓に天変有正名號のち擒られて中將鳴高罪に伏する惟規住吉へ御使に立三島江口に遊女香炉に値遇し宝の笛を失ひ篭居の事　十編　同人密に北越へ出奔○紫式部めいりのひとりごとの歌に由來○宣孝丹生使の時亂村の狼藉避く六田の茅屋に旧熟の婦と二子に再會帰洛の後ち宇佐へ赴く　十一編　六田の梭手児嫉妬に野洲子病て身やつれ入鳥児姉の仇を復さんと紫式部一女子を産む後大貳三位賢子是なり此巻法皇ふつゝの話を以て書収む　十二編　惟規北国流浪あれること多〳〵紫式部寡婦ふたり上東門院に宮仕の顛末　十三四編　式部父女の忠貞こゝやゝ記〳〵御堂殿小野宮殿の栄花と賢才をもて出〳〵花あり實あり御高評を希ふ

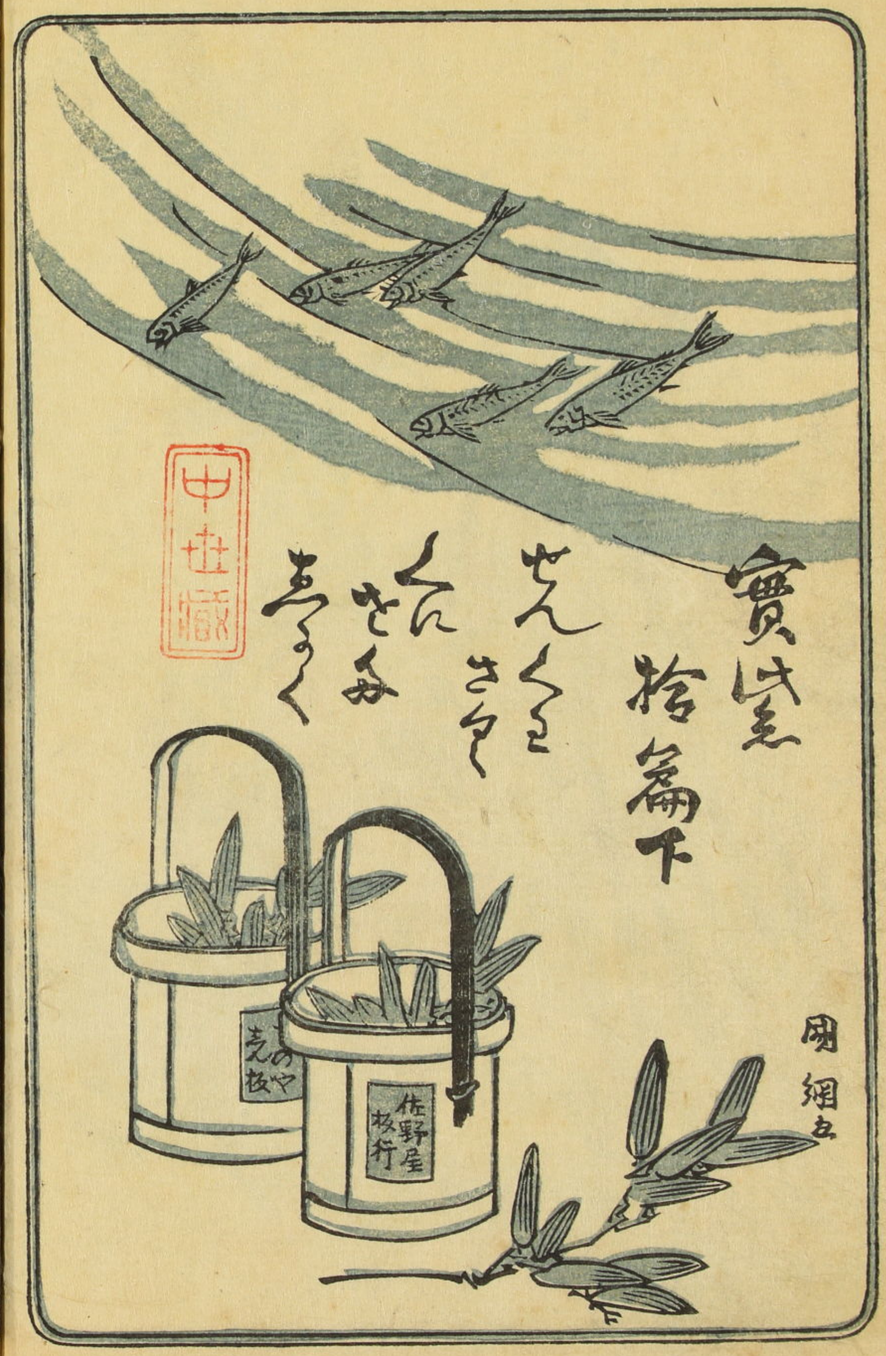
花兄弟陸奥名所　初編　二編　三編　同作國芳画

芝神明前　喜鶴堂敬白

根源雲雲

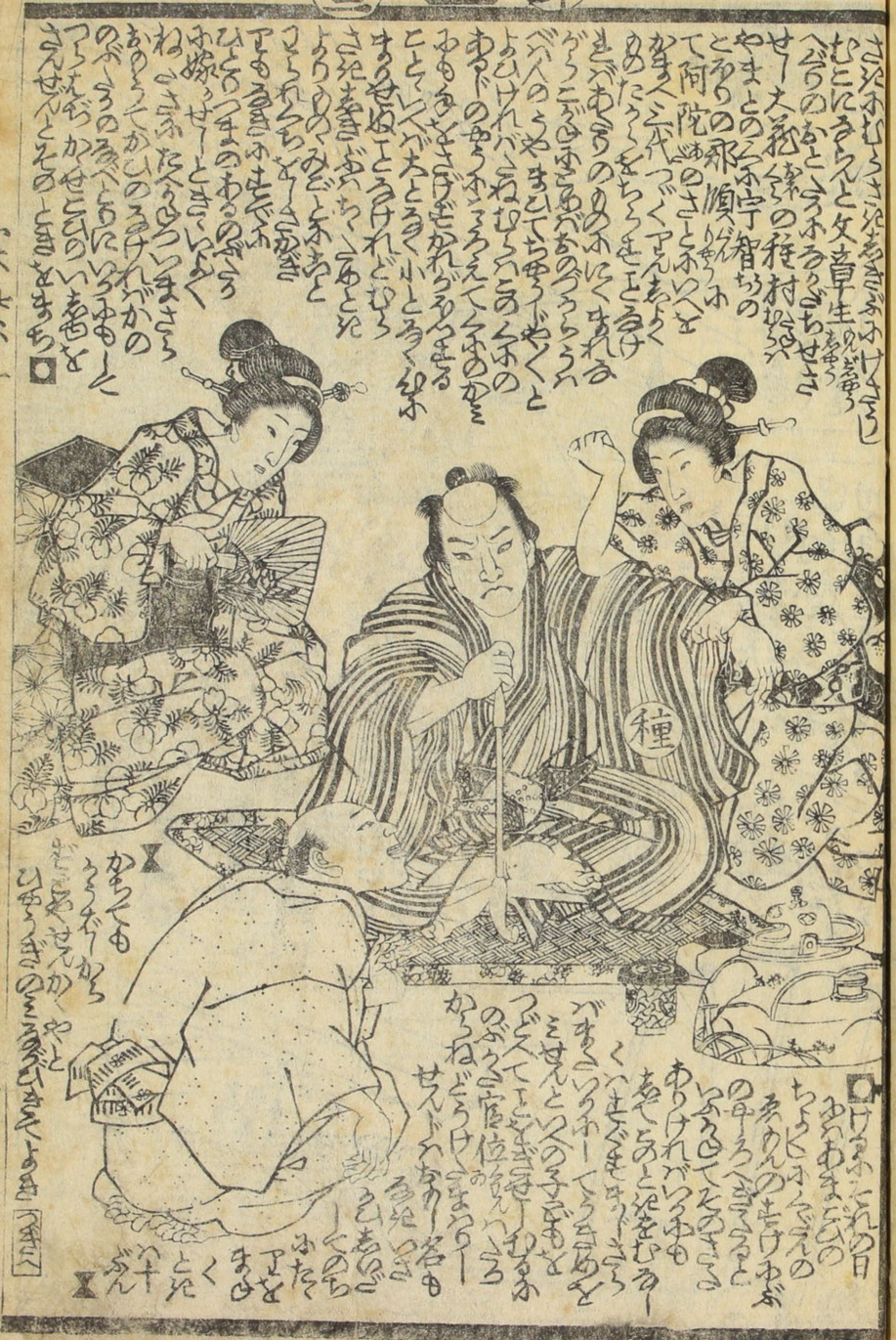
十編下

佐楚屋彩鐫



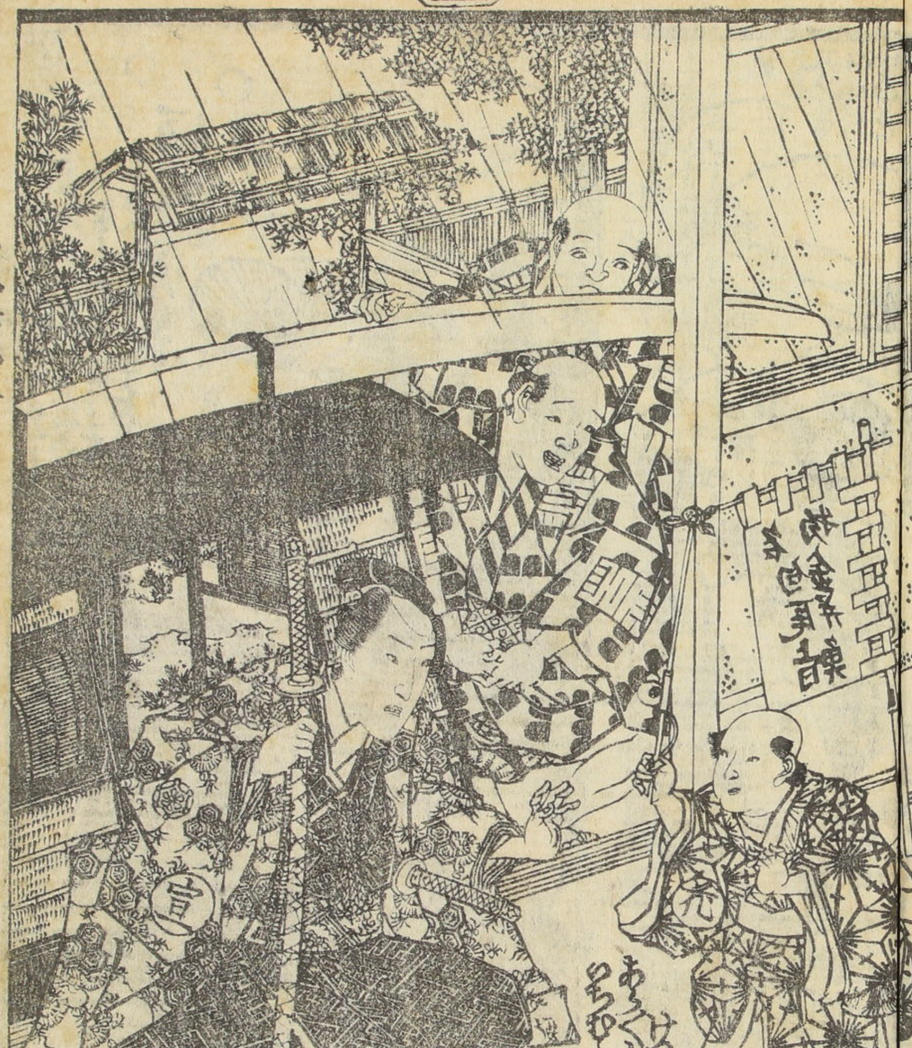
實説 拾篇下

せんくんさを
くんさを
きゝ



八省院
官材

鉤飛鮫
宣孝丹生使のとれい敵左衛門尉えれど



北野の紅葉

安政四丁巳年孟春新鐫目録

娘庭訓金鶏	山東庵京山作 初編 二編 三編	梅蝶楼國貞画	
おくみ総次郎琴聲美人録	同 十四編 十五編 十六編	立川齋國郷画	
夢想兵衛勘畧枕	笠亭仙果作 五編 大尾	一勇齋國芳画	
新増補西國奇談	爲永春水作 三編 四編 五編	歌川國貞画	
吉三七松梅竹取物語	樂亭西馬作 初編 二編	歌川國貞画	
根源實紫	笠亭仙果作 十 十一 十二編	歌川國貞画	
花兄弟陸奥名所	同作 初編 二編	同画	

東都地本繪草紙團扇問屋
芝神明前三島町角
佐野屋喜兵衛板

第三番
廿ノ貳